

# 高校二年次における習熟度別英語指導の試み

山本 岩 男

## 1 英語の学力差と習熟度別クラス編成

本校では20余年前より高校三年時において英語ⅡBにあたる週3時間を習熟度別に3段階に編成して行っている。(その実践記録と成果は宮田学教諭が詳しく報告している。)習熟度別指導を行っている理由は本校英語科が学力差の大きい集団に対して一斉指導よりも授業効果が上がると考えているからである。具体的には、成績下位クラスの生徒に対して基本的事項の解説や練習、英文の構造把握、小テストのために時間を十分かけて指導できるし、一方上位クラスではそれらの時間を省いてより多くの文章をより深く理解し、単語、連語なども多く習得するよう指導できるということである。生徒の英語学力差は試験の問題の性質などのため必ずしも大幅に縮まるとはいえないが、少なくとも一斉指導よりは生徒1人1人の学習効果は上がるといえる。

なぜ、60年度では高二についても習熟度別指導を試みたかといえば、倉田有邦教諭が本校紀要第30集で報告しているように60年度高2の英語学力が例年に比べて極端に低く、しかも学力差も異常に大きいことが理由といえる。

本校では高2の段階で英語Ⅱ(5単位分)を履習することになっているが、実際には英語Ⅱの教科書を用いた週3時間の授業(Rと呼ぶ)、英語ⅡCの教科書と副教材を用いた週2時間の授業(CGと呼ぶ)に分けて実施している。60年度高二について上に述べたような理由から習熟度別指導を試みたのはRの時間のみである。その理由はすべての英語の授業を習熟度別クラス編成で行った場合に生ずる人間関係におけるまさつや生徒自身の劣等感や優越感の増幅を恐れたこと、理科、社会科で大幅に選択制が取り入れられているためにホームルーム単位での授業が非常に少なくなってホームルームの連帯が弱まることへの懸念、そして学校全体の授業の時間割編成の複雑さをこれ以上増さないためであった。

以下、習熟度別で2つのグループに分けて行ったRと、通常のホームルームクラス単位で行ったCGの授業での実践、それについての生徒の反応、および教師の反省をまとめて本校における高校二年次における習

熟度別英語指導の試みを報告する。

## 2 60年度高校二年英語授業形態

a) CGの授業(週2時間):ホームルーム単位

担当:山本

生徒数:2A-42 2B-44 2C-44

教材:CREATIVE Writing

Course IIC(第一学習社)

総合演習(第一学習社)

チャート式基礎からの総合英語  
(数研出版)

b) Rの授業(週3時間):習熟度別クラス編成

担当: $a_1$ -山本  $a_2$ -丹辺  $\beta$ -倉田

生徒数: $a_1$ -46  $a_2$ -46  $\beta$ -38

教材:Main Stream II(増進堂)

$a_1, a_2$ は高校一年次英語成績上位92名, $\beta$ は下位38名, $a_1, a_2$ は学力差なし、学期ごとにクラス替え( $a_1 \rightleftharpoons a_2$ )を行って刺激を与えた。

## 3 Rにおける実践

a)  $a_1, a_2$ クラス

①教科書の構成がPart I(L1~12):精読教材, Part II(L13~18):速読教材となっているのでPart Iを2課読んだ後にPart IIを1課読み進めるといったパターンで授業を展開した。

②Part Iでは読解の要点を示し、予習に役立つStudy Guideという名のプリントを配布した。

### Study Guide 3

L. 5 My Life and Art with Charlie Brown

p. 43

1. 10 be out of school とはどういう意味か

11 asの意味は次のうちどれか

1 接) ~のように

2 接) ~の時に、~につれて

3 接) ~なので

4 前) ~として

11 ambitious (a.) ( ) (n.)

Boys be ambitious. (意味)

12 amateur ←————→ ( )

We-are-sorry replies cf) p. 10

p. 44

1. 8 Such とはどういうことをしめすか  
 9 that は何をしめすか  
 13 several のあとに何を補えばよいか

p. 45

1. 4 failure(n.) ( ) (v.)  
 5 success(n.) ( ) (v.)  
 ( ) (a.) ( ) (a.)  
 6 as の意味は上の1~4のうちどれか  
 some とはどういう意味か  
 8 that は何をしめすか  
 9 their とはだれのことか  
 11 offend ← ( )  
 13 decency (n.) ( ) (a.)

③定期試験では総合的に英語力をつけるために毎回、英英辞典の定義からその単語を答える問題、聞きとり問題を課した。

④授業の流れはおおよそ次のとおりである。

- I 前時の復習(物語の筋についての簡単な質問)  
 II 新出語句の発音練習, 本文のテープの聞きとり  
 本文の発音練習  
 III 本文の全体的内容把握  
 IV 本文の細かい解釈, 文法的説明

⑤Part II では注釈が多かったので, 細かい解釈よりも話の筋をつかむことを目的としてPart I に比べて1.5倍ほどの速さで読み進めた。

b) βクラス

①進度を極度にゆっくりと。(年間75ページ, αクラスの半分以下)

②文法説明はかなりくわしく行った。各課で重点的にまとめていることはもちろん説明したが, それより基礎の中学または英語 I での既習事項もまとめて復習し直さなければならないことが多かった。

例: 関係代名詞の継続的用法や受身の分詞構文などはそれぞれ, 制限的用法や, 基本的な能動態の分詞構文から説明しないとどうにもならなかった。

③テスト問題はαに比べ, 範囲ははるかに少なかったはずだが問題の質, 程度はあまりやさしくなかった。

④平常の授業の典型的パターン

- I 新出単語の音読, 意味確認  
 II 教師によるModel Reading, テープの聞きとり  
 本文の発音練習(全員, 個人)  
 III 細かい解釈, 文法的説明

⑤宿題はその日進んだ分(10~15行)の中から応用英

作文の形で出すことが多かった。とはいえ, 少なくとも本文中のものより「単純化」した形のものにした。

#### 4 CGにおける実践

勉強がおもしろくない → 勉強をしない  
 ↑ ↓  
 勉強がわからない

この悪循環によって集中力が欠けたり, 理解の遅い生徒は学習意欲を失ってますます学力の差が大きくなると考えられるので, この悪循環を断つために通常クラスで行うCGの授業では, 英語に対する興味, 関心を掘り起こすとともに, 基本的な事項の定着を目的に次のような試みを行った。

a) Study Guide

高一の時に使用した文法教材の復習と, それ以外に英語 II として学習すべき事項の導入, それについての練習問題を各項目にまとめて活用した。

#### Study Guide 7 関係詞

##### Review

先行詞	主格	所有格	目的格
人	who	whose	whom/who (口語)
事 物	which	of which; whose	which
人・事 物	that	×	that

⋮

##### New Items

1 whatever, whichever, whoever

a 名詞節をつくる

I will take whoever wants to go.

Whatever she cooks always tastes good.

b 歩歩を表す副詞節をつくる

Whoever may come, you must not admit him.

●「歩歩」を表す副詞節を導く場合

whoever ~	=no matter who ~	「だれが~とも」
who(m)ever (口語)	=no matter who(m) ~	「だれを{に}~とも」
whichever ~	=no matter which ~	「どれ[どちら]が{を}~とも」
whatever ~	=no matter what ~	「何が{を}~とも」

① 次の各文の( )に下から適当なものを選んで入れよ。同じものを何度用いてもよい。なお, 全文を和訳せよ。

- 1) You may take ( ) seat you like.  
 2) The policeman stopped ( ) he saw on the street.  
 3) ( ) comes late will be punished.  
 4) He didn't believe ( ) I said.

whoever, whomever, whichever, whatever, whenever, wherever, however

② 3) punish 罰する 5) creak 軋しむ 6) advertisement 広告

b) 小テスト

前時に学習した「Creative」; 「総合演習」の英文から5題ずつ和文英訳の小テストを授業の初めの5~10分くらいで行った。

c) 自由英作文

タイトル(例: My Home Town, School Festival, Japan)を与えておいて生徒自身の経験, それについての感想を10行程度の英文にまとめて提出させた。そして山本ができる限り細かく添削して返却した。生徒の生活に英語をできるだけ結びつけることと, 平易な英語を使ってきちんと意志伝達ができるように練習した。

JAPAN

One of the most popular persons in Japan now is Seiko Matsuda. She will be married at the end of this month. But there are some problems in her marriage, because she had a lover last year, but she is engaged to another man. It is natural that people blame her. Though it is a pity that she leave the entertainment world, it must be the best way for her because it is her own decision. Her final concert was wonderful. I hope that she will be happy.

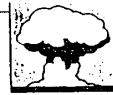
WINTER VACATION

From December 20 to 25 I went skiing in Tsugaike for the activity of ski circle. We stayed at a beautiful hotel and we skied all day. I wasn't a good skier, but thanks to our teachers' instruction I came to ski a little better. Our teachers were very friendly, so we had a very pleasant time. But I lost my health because I ate too much.

On January 1, 1986, I went to Osu Kannon with my friends early in the morning. I wore kimono. On my way home, I was called by a cleaning woman at the subway station. She said to me with a wonder look, "Excuse me, but by whom were you dressed?" "By my mother," I said. "Well, the position of your neckband is opposite," she said. I was very ashamed. It was consoling to know that there was none else because it was early in the morning.

d) 広島についての英文記事

本校では数年前より高2の研究旅行で広島を訪れ, 平和公園, 資料館を見学し, 講演を聞くことになっている。そこで生徒の広島見学の事前指導として TIME (July 29, 1985) の記事を読んだ。



WHAT THE BOY SAW

# A Fire In the Sky

When Yoshitaka Kawamoto came to the classroom was very dark, and he was lying under the debris of the crushed school building. In those days most Japanese buildings were made of wood; when the Bomb dropped, all but one or two of the structures that stood near the hypocenter of the explosion were flattened like paper hats. Kawamoto's school, the Hiroshima Prefectural First Middle School, stood only 800 meters, a mere half-mile, from the hypocenter. Two-thirds of his classmates were killed instantly where they sat at their desks. Some who survived were weeping and calling for their mothers. Others began singing the school song to bolster their courage and to let passersby know that the 13-year-olds were still alive.



## 5 実践をふりかえって

a) アンケートの結果

三学期末に全員を対象としたアンケート調査を実施した。〔表-1〕はRの授業, テストに対する評価と習熟度別クラス編成について, 生徒の意識変化を示している。アンケート項目の4, 5のA~Oが対応していると考えてA, Iを肯定的, E, Oを否定的と考えるとする。習熟度別指導の実施前, 後を比較してみるとαクラスでは肯定的意見を持つ生徒の割合が35%→42%, 否定的態度の生徒の割合が21%→20%, βクラスでは肯定的な生徒が26%→50%, 否定的が46%→18%となった。αクラスではあまり大きな意識変化はなく, βクラスでは支持者が約2倍になり, 拒否者が1/2以下というように習熟度別クラス編成について好ましく思う生徒が著しく多くなっている。αクラスの生徒の意識変化が少なかった原因としては, ①学力差の大きい集団の上位で構成されていたために, 学力にそったきめの細かい指導が不十分であったこと。アンケート項目2, 3からわかるように②授業の内容が難しかったこと, ③授業のペースが速かったこと, が考えられる。βクラスで支持者の増え方, 拒否者の減り方が著しかったのは, ①βクラスの多くを占める附属中学校出身者にとっては中学1年, 3年, 高校1年のCGに続いて倉田教諭に指導をうけるのが4年目ということ

高校二年次における習熟度別英語指導の試み

高二Rについてのアンケート

〔表-1〕

アンケート項目		$\alpha$	$\beta$		
1	定期テストの問題は	ア	とても簡単だった	0	0
		イ	簡単だった	2	7
		ウ	ふつう	23	50
		エ	むずかしかった	45	36
		オ	とてもむずかしかった	30	7
2	授業の内容に	ア	よくついてゆけた	2	7
		イ	だいたいついてゆけた	20	38
		ウ	どちらともいえない	40	41
		エ	ついてゆけないことが多かった	26	14
		オ	とてもついてゆけなかった	12	0
3	授業の進め方は	ア	とても遅かった	0	7
		イ	遅かった	2	43
		ウ	ふつう	46	50
		エ	早かった	31	0
		オ	とても早かった	21	0
4	高一のとき二年のリーダーを $\alpha$ 、 $\beta$ のクラスにわかれて行うことについてあなたはどのように思っていましたか	ア	とてもよい	13	10
		イ	よいほう	22	16
		ウ	どちらでもない	44	28
		エ	いやなほう	12	7
		オ	とてもいや	9	39
5	一年間リーダーを $\alpha$ 、 $\beta$ にクラスを分けて行ったことについてあなたはどのように思いますか	ア	とてもよい	9	11
		イ	よい	33	39
		ウ	どちらともいえない	38	32
		エ	あまりよくない	11	7
		オ	全くよくない	9	11
6	3年生ではRを $\alpha$ 、 $\beta$ 、 $\gamma$ のクラスに分けて行いますが、それについてどう思いますか	ア	とてもよい	9	11
		イ	よい	27	41
		ウ	どちらともいえない	41	33
		エ	あまりよくない	13	4
		オ	全くよくない	9	11

(単位：%)

で、倉田教諭の授業に親しんでいたし、倉田教諭も彼らの不得意分野を重点的に指導できたこと、②通常のホームルームよりも人数が少なく(38人)、しかも学力下位の集団ということで差も少なかったこと、③アンケート項目2、3からわかるように授業の内容、進度が $\beta$ クラスの生徒にうまく対応していたこと、が考えられる。

次ページの〔表-2〕は通常のホームルーム単位で行われたCGの授業について、Rのそれぞれのクラスの生徒の反応を示すものである。項目7~12のいずれにおいてもア→オの順で適応度(評価)が低くなると考えてよい。全体的にRで $\alpha$ クラスの生徒の方がStudy Guide、小テスト、自由英作文について評価が高くテスト、授業の内容、進度によく適応している。また、〔表-1〕のアンケート項目1、2、3と〔表-2〕の10、11、12と比べると習熟度別クラス編成にした効

果がはっきりわかる。授業の内容について(項目2、11)比較してみると $\beta$ クラスの生徒はCGの授業内容についてゆけたとする生徒は3%なのにRでは45%がそう答えている。また、ついてゆけないことが多かった、全くついてゆけなかったと答えた生徒はCGでは60%もいたのにRでは14%であった。同様のことが項目1、3にも言える。

b) 実践についての反省

(1) R

$\alpha$ クラス

進度、授業内容とも生徒にとっては少しきびしすぎたようだ。成績上位の生徒集団とはいえ学力差も大きく、基礎力が不足していた生徒も多かったので、基本事項をもう少ししていねいに復習することと要点をはっきりさせた指導が必要であった。

高二 CG についてのアンケート

〔表-2〕

ア ン ケ ー ト 項 目				$\alpha$	$\beta$
7	Study Guide	ア	とてもよかった	16	7
		イ	まあよかった	39	17
		ウ	ふつう	36	56
		エ	あまりよくなかった	7	13
		オ	まったくよくなかった	2	7
8	小テスト	ア	とてもよかった	6	3
		イ	まあよかった	25	20
		ウ	ふつう	49	27
		エ	あまりよくなかった	15	27
		オ	まったくよくなかった	5	23
9	自由英作文	ア	とてもよかった	8	3
		イ	まあよかった	29	23
		ウ	ふつう	44	38
		エ	あまりよくなかった	8	33
		オ	まったくよくなかった	11	3
10	定期テストの問題は	ア	とても簡単であった	0	0
		イ	簡単であった	2	0
		ウ	ふつう	44	17
		エ	むずかしかった	39	50
		オ	とてもむずかしかった	15	33
11	授業の内容に	ア	よくついてゆけた	4	0
		イ	だいたいついてゆけた	30	3
		ウ	どちらともいえない	43	37
		エ	ついてゆけないことが多かった	16	37
		オ	とてもついてゆけなかった	8	23
12	授業の進み方は	ア	とても遅かった	1	0
		イ	遅かった	11	3
		ウ	ふつう	61	50
		エ	早かった	21	40
		オ	とても早かった	6	7

(注：この表の $\alpha$ 、 $\beta$ というのはRのクラスが $\alpha$ クラス、 $\beta$ のクラスということの意味している。) (単位：%)

### $\beta$ クラス

教材そのものの程度がこのクラスの生徒には難しすぎた。実質的に中二～三程度でないと理解できず、一部の特に遅れている者はまさに中一の初めからやり直す必要がある。(例；人称代名詞の変化と用法、基本時制、疑問文および否定文の作り方)したがって進度を遅くしたくらいでは対応できない面もあった。ただし、もしそのような教材を使った場合、英語Ⅱという教材としてみなしてよいかどうか、別の問題が生ずる。

### (2) CG

成績下位の生徒に対する配慮が不十分だった。高校

二年生として標準的な英語力をもつ生徒から、中学一年生の段階から復習する必要がある生徒まで対応する授業は困難で、成績上位者、下位者のどちらにも授業に対する意欲を引き出すことができなかったことはとても残念だった。

### (3) 全体を通して

Rにおける習熟度別クラス編成は成績下位グループに対する差別だという批判があるが、アンケートの結果からわかるように、下位グループの生徒こそ習熟度別クラス編成について肯定的な態度を示す方向にこの1年で大きく変わってきている。高一の時の通常クラス単位の授業ではあまり理解できなかった英語が、レ

## 高校二年次における習熟度別英語指導の試み

ベルに合わせた指導によって少しずつわかるようになってきたことが差別という印象をぬぐいさって肯定的態度にうつった理由であろう。参考までに生徒の習熟度別指導に対する代表的な肯定的、否定的意見を紹介する。

### 〔肯定的〕

- Rは習熟度別に分けてよかったと界う。私は1年生の時Rは赤点（落第）だったので2年生でついていけるか心配だったがβのクラスではいつも平均点をとれるようになったのでよかった。(β女子)
- 今までRの授業が苦痛だったけど今年1年は楽しく聞けたし、少しだけ英語が好きになった。

(β女子)

- やはり遅れている人に合わせていると、自分の力はあがらないし、実力のある人にはそれなりのレベルで教えないとその人のためにならない。

(α男子)

### 〔否定的〕

- 差別だと思えるから。(β男子)
  - βの子を何かばかにしているみたいだから。
- (α女子)
- βクラスに行った人はやる気をなくしてしまうか

ら。(α男子)

- βだけ遅れてできない子はますますできなくなり逆効果だ。(α女子)

### (4) 検討課題

1. 学力差の大きい通常クラス単位でのCGの授業方法
2. 習熟度別クラスのクラス替え(α←β)の方法
3. 習熟度別指導を受けた生徒の評価方法
4. 2年から習熟度別指導することの学力への効果

この試みは60年度高二を対象になされたもので、61年度において高三の彼らには、例年通りRはα、β、γの3段階にクラス編成をしてひき続き習熟度別指導がなされているので上記の検討課題に何らかの答えができるように努力したいと英語科は考えている。

### 注

- (1) 宮田 学 「学力差を考慮した英語の指導」  
(本校紀要第25集 1980年)
- (2) 倉田有邦 「学力層の広い生徒集団について」  
(本校紀要第30集 1985年)